

2020（令和2）年度のテキストです

第6講 博物館とインターネット2

1. 博物館のウェブサイトの要点注意点 音声ファイル1 media2020_6-2.mp3

1) 利用場面

ウェブサイトは玉石混交で、博物館では使い勝手の悪いサイトが目立つ。利用者の視点でウェブサイトの構造と内容を考察する。利用者や利用方法は10年前に比べると多様である。古い方法が消えて新しい利用になったのではなく、古い利用方法が継続したまま新たな利用者や利用手段が年々追加されている。

博物館のウェブサイトで想定すべき利用場面は①偶然の閲覧②来館思案時③来館予定による情報収集④来館行動中⑤来館時⑥資料情報収集⑦学芸員検索⑧研究内容追求⑨事務手続⑩その他、などとなる。利用方法では①パソコン②タブレット③スマホ④プリント⑤ウェブ情報として保存⑥ネットへの転用⑦出版物への転用⑧その他、を考えておきたい。たとえば黒バックに白抜き文字は印刷に不向きである。不要な背景を抜いてプリントしても白い文字は印刷されない。背景を入れるとインクがムダになる。

実際の利用はこれらの場面と方法の組み合わせであり、PCでは関連する別のウェブサイトを見比べながら、スマホでも複数の人が手分けして別サイトを比較しつつ利用することも想定したい。

2) ウェブサイトの構成と内容 館長と学芸員は掲載すべし

上記の注意点を逐一記述するのは不毛なため、ページの構成と内容について概要を記す。なおウェブページとはブラウザで閲覧しているページでありURLに1対1対応、ウェブサイトとは特定の目的や主題によるウェブページの集まりである。ホームページとは本来はブラウザを立ち上げた時に開くページであり、自分のPCやスマホの設定が決める。

①トップページ：博物館の基本情報を記載する。基本情報とは、名称、ふりがな、所在地、郵便番号、電話番号、メールアドレス、開館時間、休館日、入館料などである。トップページに住所や電話番号が記載されない博物館がいくつもある。また郵便番号の記載がない館園もちらほら。郵便番号は所在地情報として広く利用可能であるので不掲載は不親切である。

右) 大阪市立自然史博物館 にぎにぎしいがトップページに必要な情報が十分にある

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>

②その他掲載すべき情報：館長名、学芸員の氏名と専門分野や研究対象、展示室案内図、バリアフリー情報（車イス利用可能内容）、紀要と年報の全文。事務手続きに館長名は必要となる。

この記載のない館園が多い。館園実習の書類提出では、館長名を知るためにいちいち電話することもしばしば。学芸員の氏名が無い、つまり学芸員の顔が見えない博物館は多い。とりわけ市町村立館が目立つ。県立館でも人文系では不掲載の場合が多いと感じる。一般の公務員は匿名で仕事をするが、学芸員はそれとは異なり顔を出し、研究内容については個人で責任を負って仕事するからである。紀要と年報は博物館と学芸員の仕事の公開である。納税者（＝全国民。公立であっても国費

本日の授業資料
media2020_6-1-4
pdf×1、mp3×3



が何らかの形で注入されている)への還元に加え、情報公開の意味からも必要。

学芸員の情報は研究志向の強い博物館は充実している印象

研究職員紹介 - 千葉県立中央博物館 <http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/contents/1520614433804/index.html>

スタッフ紹介 | 神奈川県立生命の星・地球博物館 <http://nh.kanagawa-museum.jp/staff/index.html>

③できれば掲載したい情報：メディア掲載写真（外観と展示室）、資料データベース、展示案内、主要資料の解説解説。観光ガイドや（少なくなったが）カーナビ、おそらく現在ではウェブマガジンなどから博物館の記事に添える写真を要望されることがある。逐一送るのは面倒なので「ご自由にお使いください」とウェブサイトにおいておくと手間が省ける。

知床博物館の施設写真 <http://shiretoko-museum.mydns.jp/shisetsu/picture>

外観写真はクリックすると最大で 1.6 MB 2048×1536 px の画像が得られる。幅6cm程度の印刷には十分

3) 独自サイトは必須 音声ファイル2 media2020_6-4.mp3

独自サイトは

なお独自サイトと独自ドメインは異なる。ドメインとはURLであり独自名称で短い方が格好がよいものの必要性は低い。市役所や親会社URLにぶら下がったURLでもページのデザインや内容、構造にまとまりがあれば独自サイトである。

【独自サイトではない例】。ぜひ実際にサイトを見てほしい

右) 旭川市科学館トップページ

(札幌見学旅行で訪問します)

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/science/>

トップページは「科学館サイバル」とあるが、その表示の上部に「旭川市」という表示があり、市の下位ページという印象。また下には「旭川市科学館」と記され名称が混乱している。ページの最下部に住所と電話番号が見えるが、これは科学館ではなく市役所のものである。これでは間違えて市役所に電話してしまう。下位ページも同様のページレイアウトで市役所の一部という作りになっている。ついでに言えば、必要な情報の（ページ）階層が深く、いつまでたっても必要な情報が取り出せず何度もクリックする必要がある。だましサイトのよう。科学館の電話番号が見つからずGoogleで検索の方が早い。

4) 館内独自の情報提供は不要

かつて手掛けられた館内用独自ウェブサイトや情報提供

は、課金が目的ならば別であるが、利用者からは不要と考える。館内で必要な情報ならば事前事後にネット経由であらゆる場所で入手可能な方が便利である。作品を間近で見ている状態を前提にした解説についても、記憶を頼りに事後に再度経験したい場合もある。

館内提供情報とネット公開情報の2本立てでの情報提供は手間である。来館者への特別な体験としてネット公開せずに館内コンテンツとするという考え方もあるが、おなじ情報を得たとしても展示資料を目の前にした場合と自宅や他の場所とでは異なる経験となる。館内体験の特別性希少性はネットでの情報公開では損なわれない。



5) 博物館が使うウェブサイト

おもに展示に関連したネット販売の情報。

店舗用品のMiseDas (ミセダス) - 販促品・店舗什器・ディスプレイ用品 <http://www.misedas.net/index.asp>

販促品が何でも揃う | 販促通販の【POP GALLERY】ポップギャラリー <https://www.popgallery.jp/shop/c/c0/>

株式会社パレット・PARET 文化財・美術品・絵画の修復用品・機材販売 <http://www.paret.jp/index.html>

布製インクジェットメディア なら『くろす専門』にお任せ! / セーレン商事 <http://www.cloth.jp/>

プラダン.com | プラスチックダンボール加工、販売 <http://www.pladan.com/index.htm>

アクリ屋ドットコム | アクリル板材料の加工とアクリル製品の専門 <http://www.acry-ya.com>

2. CiNiiと機関リポジトリ

1) 論文の一括ネット公開システム

機関リポジトリ (リポジトリのみでも使用) は、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム (機関リポジトリ - Wikipedia)。平たく言えば論文のインターネット公開システム。かつては研究者が自主的個人的におこなっていたが、所属機関が一括してネット公開するもの。国立情報学研究所 (NII) にはインターネットに接続した機関内サーバに一定の方式で論文情報 (メタデータ。後述) を格納しておく、メタデータが自動的に収集され、CiNii*に搭載される仕組みがある。可能ならば論文自体のデータにもリンクする。これを利用することで、学内作業だけで全世界に情報発信が可能となる。雑誌の発行元が公開すればオープンアクセスジャーナル、研究者の所属機関による公開が機関リポジトリということ

である。残念ながら農大のリポジトリは博士論文の公開だけとなっている。

左) 北海道大学の機関リポジトリ HUSCAP

<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp>

右) 一橋大学の機関リポジトリ HERMES

<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/ir/index.html>

The screenshot shows the HUSCAP website interface. At the top, there's a header with the university logo and name. Below that, a navigation menu includes 'ホーム', '本コレクションについて', 'オープンアクセス方針', '検索', and '詳細検索'. The main content area is titled 'Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers' and lists various research papers with their titles and dates. For example, it lists papers from March 31, 2020, to January 6, 2020. There are also sections for 'HUSCAP Senior' and 'HUSCAP レポート'.

The screenshot shows the HERMES-IR website interface. At the top, there's a header with the university logo and name. Below that, a navigation menu includes '概要', '理念', '登録方法', '研究者ダウンロード', 'FAQ | よくある質問', '関連リンク', and '規程 | 報告 | 広報資料'. The main content area is titled 'HERMES-IR (一橋大学機関リポジトリ) によろこそ' and lists various research resources. There are also sections for 'Special Collections' and '機関リポジトリとは'.

【もっと詳しく】

システム管理とメタデータ 2017年度11月6日改訂版 機関リポジトリ新任担当者研修テキスト pdf 2.1 MB

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=91&item_no=1&attribute_id=16&file_no=1

国立情報学研究所による研究機関担当者向けの説明資料。とっつきにくい、これが平易な説明

*CiNii [さいにー] 日本語の論文、書籍、博士論文の検索システム。未経験者はすぐに体験してほしい

CiNii全般 - CiNiiについて https://support.nii.ac.jp/ja/cinii/cinii_outline

2) CiNiiに市町村立の博物館紀要は非掲載

ところが日本の論文情報サイトであるCiNiは市町村立の博物館の刊行物を収録していない。現状のCiNiiのデータは国会図書館「雑誌記事索引」の転載で、この「索引」には市町村立の博物館の出版物は収録されないからである。理由はそもそも「索引」には市町村刊行物は主題や対象が「特定の分野・地域等に限定している雑誌」非採録という基準に該当するためである。

いま市町村の博物館紀要が直面している課題 https://www.jstage.jst.go.jp/article/seitai/66/1/66_265/_pdf

3) Googleの存在を前提にすれば個人サイトで対応可能

ではどうすればよいか。Googleなどの検索エンジンを前提にすれば個人ウェブサイトに掲載していても、世界からアクセスされる。英文科学雑誌ではインパクトファクター (IF) や被引用回数などを表示する至れり尽くせりの文献データベースが利用できるが、日本語雑誌にはそのようなサービスは未構築である。一刻を争う激しい競争の渦中にある生命科学と異なり、博物館の研究報告の内容は簡単には古びない。検索エンジン経由で飛んでくる利用者を期待しておけば十分と考える。連絡手段のメールアドレスを忘れずに。

3. ドキュメンテーションとメタデータ 音声ファイル3 media2020_6-4.mp3

1) ドキュメンテーションの意味

①文書・証拠書類・資料などを提示すること。文献情報活動。②記録などを体系的に整理し、文書化すること (デジタル大辞林)。ここでは②の意味で用いている。積極的に言えば、事物を文字で表現すること。音楽や絵画、映像、写真などの作品の解説が代表的であるが、資料の情報作成もおなじ行為である。よって学芸員にはドキュメンテーションの能力が必要である。解説や解題もドキュメンテーションのひとつ。

2) 人文系の博物館や美術館で議論が盛ん

ドキュメンテーションという言葉やその考察は美術の分野で議論されてきた。生物には学名という世界標準の記述方式があるのに対し、美術作品を含む人間の創作物には標準名が存在しない。資料名を記載する場合でも、ひとつの名称が多数の意味を持つ言葉を避けること、商品名や地域固有名称によらない標準名称の追求、唯一無二の作品にふさわしい名称、それら自体が研究事項となる。衣服で「シャツ」とは何か。下着なのかボタンがついて人前でも恥ずかしくない服なのか。

人文系の博物館では資料の名称は「与えるもの」であり、それを考えるだけでも大仕事のことがある。上の写真は北海道立北方民族博物館で常設展示されているトナカイの歯を飾りに使ったベルトである。資料名は「トナカイ歯装飾付帯」となっている。北方民族博物館公式サイト：北方民族の文化 http://hoppohm.org/object2/H2_175.htm



3) メタデータ

メタデータとはデータ*のデータ**である。この場合のデータ*は目的とする資料、データ**がいわゆる資料データである。目的とする資料が物体の場合は資料とデータという言い方でよいが、デジタルデータの場合に混乱が生じる。スマホの写真では目的とする資料もデジタルデータであるので、データは画像データそのものを差し、付随情報がメタデータという使い分けである。

右の図は長崎大学古写真データベースの画像である。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/target.php?id=167>
デジタルデータであるので、古写真のデータといった場合は写真の画像データを、撮影情報がメタデータである。

データ→



4) メタデータの標準化

従来の資料カードの記載項目は分野ごとの共通性はあるものの、それぞれの博物館が独自の様式であった。しかし、インターネットで世界がつながる時代においては共通性が重要になり、

メタデータの標準化が推進されるようになった。たとえば日付の記載は英語でもアメリカは June 16, 2020 と他の大半の地域が用いる英式の 16 June 2020 とは異なる独自方式であるが、標準化の観点では「2020-6-16」という年月日をハイフンでつなぐ方式が奨励されている。

項目名称の共通化もとくに日本語では課題となる。できるだけ適応範囲が広く誤解の生じない語がよい。たとえば著者か作者か作成者か制作者か製作者など課題はいくらでもある。

5) Dublin Core ダブリンコア <http://dublincore.org/documents/dces/>

ダブリンコアとはウェブ上のメタデータの名称や定義の標準集。Dublin Core Metadata Initiative (DCMI) が提唱している。基本となるのは15の要素（メタデータの項目）で、title, creator, subject, description, publisher などからなる。この時点の日付はdateだけだったが意味不明だったので（作成日か収集日か入力日かなど）、現用の要素は下位定義を付加している（date created 作成日, date issued 発行日など）。常識的な内容を改めて定義して標準化したものである。聞き慣れない英語名称にびびらないのが肝要。

【詳しく知るには下のサイト】

Dublin Core - Wikipedia [日本語] 例で解説わかりやすい https://ja.wikipedia.org/wiki/Dublin_Core

The Web KANZAKI 「Dublin Core: メタデータを記述するボキャブラリ」 個人サイトでわかりやすい解説

<http://www.kanzaki.com/docs/sw/dublin-core.html>

DCMI/ DCMI Metadata Terms 現用メタデータ用語集 <https://www.dublincore.org/specifications/dublin-core/dcmi-terms/>

DCMIメタデータ語彙 上記2012年版の国会図書館の和訳 <http://ndl.go.jp/jp/aboutus/standards/translation/dcmi-terms.htm>

和訳に対応する原文はこちら <https://www.dublincore.org/specifications/dublin-core/dcmi-terms/2012-06-14/>

国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 (DC-NDL) 解説 日本語の公式解説

http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/standards/meta/about_dcndl.html

国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 (DC-NDL) 関連情報のまとめとpdfへのリンク集

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/standards/meta.html>

【レポート6】下の写真について指示に従い解説文書を作成する。

提出方法：Microsoft Wordを用いA4判片面で作成、1行全角40字とし、適切なレイアウト（余白とフォントサイズ、行間に注意）とフォント（明朝体またはゴシック体、ウエイト＝太さに注意）を用いワード様式のまま添付ファイルで提出する。提出期限：6月25日（木）正午 送信先：y3uni@nodai.ac.jp

指定事項：

- 1) 1行目 学科、学籍番号、氏名を記載する
- 2) 2行目 展示室でのこの解説のタイトルを記す
- 3) 3行目 この写真が展示される展示会の名称、写真の展示場所とサイズ、を設定して記載する
- 4) 4行目 本文は4行目以降に記すこと。本文文字数は120-400字（3-10行）
- 5) メールの本文は学科、学籍番号、氏名を記載すること
- 6) メールの件名は、博物館情報メディア論レポート6 [6は全角]

注意事項：

参考資料は何を使ってもかまわない。出典の記載は不要。語尾や言い回しなどを統一すること

「だれが、いつ、どこで」（資料ラベルにおなじ）、何を撮影したのかを最低限説明すること。説明では観覧者が見るべき点、疑問に思う場所への配慮、気付かない重要内容の示唆などが重要である。「1969年7月21日にアポロ11号の阿姆斯特朗船長が撮影したオルドリン操縦士の写真」は回答者への説明であるので、読み手はこの情報を事前に共有していないことに注意すること。つまりこの情報も記す必要がある。

1969年7月21日にアポロ11号の阿姆斯特朗船長が撮影したオルドリン操縦士の写真

